

5月31日、高浜原発から5km圏内のPAZとPAZに準ずる舞鶴地域の250世帯にチラシ配布を行い、住民の皆さんと話をしました。チラシには、舞鶴をはじめ京都の皆さんが手紙のような形で、それぞれの思いを書きました（右図はチラシの一部）。また、避難計画を案ずる関西連絡会の協力もあり、高浜原発の危険性を説明したカラーリーフも一緒に配布しました。

### 高浜原発から5キロ

### またはPAZに準じる地域にお住まいの皆さまへ

地震国日本で、1番古い原発、高浜1・2号機がまもなく稼働しようとしています。  
何が起るか誰もわかりません

地震が来るたび原発は大丈夫かな…と不安になります。古い原発ならではの燃えやすいケーブル。制御棒が制御されていない高浜3、4号機。長い間運転されていない1、2号機。長い間動いてなかったものを動かすのはとても危険です。政府は60年越えの原発さえ動かそうとしています。本当に大丈夫なのか、不安でいっぱい。考えたくないし、目をつぶりたいけど、どう考えても「過酷事故」が起こる可能性は大いにあります。実際小さなトラブルはたくさんありますが、小さいトラブルの内にもやめて欲しいと心から思います。原発から近くの皆さんが不安な思いや声をあげてくださると、少しずつでも前に進んでいくと信じています。大切な命、暮らすのために一緒に一歩踏み出しませんか？  
(舞鶴市40代4児の母)

農業をしていますが、もしも原発事故が起こったら、築き上げてきたもの、土も全てが終わりです。帰ってこれたとしても汚染された土地で農業をする勇気がありません。

事故が起こった時のことを考えると苦しくなります。  
(舞鶴市40代農業従事者)

原発から5キロ圏内に暮らしたことがあります。  
高浜原発5キロ圏内の皆さまが無事避難できるか

子どもの未来を考える舞鶴ママの会とグリーン・アクションが発行したチラシの一部

参加者は、舞鶴からは「子どもの未来を考える舞鶴ママの会」等4名、京都からグリーン・アクション等4名、福井、兵庫、大阪の参加者も含めて11名でした。山と海が美しく、初めは雨が少し降るのではと心配でしたが、最高の天気でも回りました。

私たちが遠く離れているところで少し休憩している時に、話しに来てくれた方がありました。魚は何がとれます？と尋ねると、「ハマチだけど今は取れなく生活は苦しい」といい、車の福井ナンバーを見て「福井はいいね。原電の関係で豊かで」と。「原発は山のすぐ向こうだ。一発でもう終わり。絶対逃げられない。規制委員会の人は許可とかだしているけれど、何の責任も取らない。原発関係で仕事をしている知り合いとか親戚が多くて、自分が反対と言ったら迷惑がかかる。外では絶対言っていない」と話されました。

この日、国会では原発推進のGX法案が成立してしまいました。それをテレビで知っていた男性に、60年を越えて運転している原発は世界に一基もない事を話すと、びっくりされていました。「またいろいろと教えてください」と言われたのでカラーリーフを渡すと、握手されました。



立地の町とは異なる反応も聞きました。「原発には反対。地区では、原発の話は自由にできる。関電に気を遣わなければならないような恩恵を受けていないので、平気でものが言える」「月に2度ほど、関電の職員が、広報の書類をもって挨拶に来るが、こちらの意見や質問に、きちんと答えてくれないので、「もう来んでもいい」と言っている」等々。元気と勇気ももらった訪問でした。

チラシ配布後、5名で舞鶴市役所の市政記者クラブに行き、京都新聞の取材を受け、翌日記事が掲載されました。